水

八友陽平

水はある

僕にも

君にも

水は何色にでも変わる

生きていく中で混ざっていく

自分の水が何色か

わかる人

わからない人

生きていく中で見つける人

分からないままの人

水は映す

目を奪われる茜空

なぜか落ち着かない曇り空

雲ひとつない澄み切った青空

ふたり帰り道で見上げた不自然なほど明るい秋空

ひとり残され立ち尽くして見上げる雪のちらつく寒空

ひとつとしておなじものはない

水は

人の個性で可能性